

大学の学問に触れて

児童招き体験教室

平塚

子どもたちに大学の学問の世
界に触れてもらおうと、神奈川大学湘南ひらつかキャンパス（平塚市土屋）で19日、地元同市立土屋小学校の児童を招いた体験教室

が行われた。5、6年生計36人が「一日大学生」として高度な植物形態学や国際経営について学んだ。

体験教室は同大の地域貢献の一環で1994年にスタート。理学部の岩元敏

准教授の授業では花や果物の構造について学習した。岩元准教授は「果物にはめしべの子房が膨らんだ『本物』の果物（真果）とそれ以外の部位が膨らんだ『偽物』（偽果）がある」と説明した上で、「パイナップルは本物か偽物か」と子どもたちに出題した。

子どもたちはルーペを手元にパイナップルの断面を観察しながら頭をひねった。正解は偽果で、岩元准教授は「子房部分は表面のみ。みんなが食べているのは茎の部分」と解説した。経営学部の湯川恵子准教授の教室は国際経営がテーマ。ゲーム形式で8チームに分かれ、紙飛行機の製造、販売による利益を競った。チームによって紙しか配られなかったり、はさみしかなかったり、条件もさまざま。子どもたちはチーム同士で必要なものを得るため交渉し合った。

役を務めた5年生の安池菜々さん（10）は「みんなで声を出しながら経営の工夫をするのが楽しかった」と笑顔だった。（深沢 剛）



パイナップルは「本物」の果物か。観察して考える子どもたち
＝神奈川大学湘南ひらつかキャンパス

湯川准教授は「世界では資源のある国と技術力がある国とがあり、お互いに協力し合えないといけない。そのためのコミュニケーション力が大仕事」と呼び掛けた。社長